

第22回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和5年12月25日（月）

開議 13時 36分

閉議 16時 28分

第2委員会室

【委員】 西田委員長、~~上野副委員長~~

村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 松井次長、小寺書記

議 題

- 1 地区まちづくり推進委員会との意見交換の振り返りについて
 - (1) 報告書共有
 - (2) 提言書への追記
 - (3) その他
- 2 その他
 - (1) 政策討論会幹事会への議題提案について
 - (2) CATV行政情報番組への応募について
 - (3) その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 36 分 開議]

○西田委員長

ただいまから第22回協働のまちづくり推進特別委員会を開会する。これまで先般、各地区まちづくり推進委員会にヒアリングにお出掛けいただき感謝する。今日はその意見交換を振り返り、出た意見をまとめてもらっているの、共有しながら提言に結び付く肝になる部分を拾い出してまとめていきたい。よろしく願います。

上野副委員長は今日欠席の連絡が入っている。

1 地区まちづくり推進委員会との意見交換の振り返りについて

(1) 報告書共有

○西田委員長

まず皆に報告書を出してもらっているし、所感もあるので、ヒアリングに行った場所ごとにまとめた意見を皆に発表してもらいたい。

○小寺書記

場所ごとというよりは、全体を通して一人ずつ発言してもらったらどうか。

○西田委員長

では一人ずつ、場所名を添えて所感を述べてもらいたい。

○岡本委員

私は浜田と三隅と金城に行った。3か所で共通していることは、次世代となる若者の参加が少ないと言われていた。次の世代にどうつなげていこうか、役になりたいということも含めて、その辺が課題だと見えている。

2点目に、自治会とまちづくり組織の位置付けがあまり理解できないという話があった。浜田でも三隅でも話が出たので、その言葉も含めて整理して皆に伝える必要があるかもしれない。

3点目に、浜田はまだまちづくり組織ができてないところもあるが、ほかは皆大体やっておられるが、コロナ禍があったことから運動会などができなくなった。事業計画をしても実行できない。事業計画上の問題が出たのではないかと感じている。

もう一つ、金城の今福は事業をたくさんやっておられる。助成金がもっと欲しいと言われた。活動されるならそれ相応のものは出す。例えば項目が限定されるなら何か名目を変えてでも出すことも必要ではないかと感じた。

○柳楽委員

岡本委員が言われたようなこと、人材不足、役員のなり手、若者の行事参加がなかなかできない状況などは結構共通していると思った。予算も、自分たちが本当にまちづくりに必要だと思う事業には予算を付けてもらいたいという意見だったと思う。

一番ショックを受けたのは、合併してから一つも良いことはなかったという話が出たことである。そういう見方もあるのかと思ったが、そう言われたことに対して、そ

の地域の誰からも特に反論もなかったのも、皆共通してそういう意見なのかと思った。良い面もあると感じてもらえるような対応が行政にできてないのかもしれない。ここはすごく大きな問題があるように思った。

○芦谷委員

今の話と重なるかもしれないが、我々議会も行政も含めて、対応が甘いと思った。例えば役員にしても、何役もやっている。まちづくり委員会も自治会も町内会も同じようなことがある。仕組み部分はきちんと整理してあげないと、皆違って皆良いと行政はばらまいていて、あとは地域で悩みながらやっておられる。

もう一つは議会のことだが、何度も何度も地域から言うが、その度ごとに言う。もっと市長の地域の日も含めて、行政側がきちんと地域の声を聞くような構えをつくってあげないと、そのパフォーマンスで言う、こちらでも言う、といったことがあるとの意見があった。

もう一つ、特に浜田、町内会が機能するところもしないところもある。例えば引継ぎなどもできてないところがある。まちづくりセンター、地域コーディネーター、協働推進委員、地区担当制、これらは行政側が整理しないと、こちらもほとんど中途半端、地域もそれを見て右往左往といった感じがしている。この委員会にしても、もう少し強い発信力で提言して行って、市の仕組みを変える。このようなことを感じた。

○村木委員

私は浜田地域の特に西側、大麻や周布、美川、長浜、それと三隅の中山間地域を担当した。総じて言えるのは、総合交付金をもっと使い勝手の良い形にしてほしい。もちろんルールを決める必要はある。それと加算、それぞれある程度の活動の加算を考えてほしいという意見があった。

私が行った浜田地域は全部、地区まちづくり推進委員会があったのだが、センター職員との関わりに濃淡がある。具体的に言うと大麻はかなりセンターとの絡みがあるが、美川は関わりが薄い。センター職員が事務局を担う、担わないというところが大きな問題だとの話が出てきた。

地域資源をどう生かすかがなかなか難しいとのこと。具体的には、大麻の踏切や折居駅、長浜の貯木場。地域をどう生かすかのアドバイスをもらいたい、そのためには専門職の人に関わってもらいたいということ。

若者の参画。これは三隅も同じだが若者の参画をどうしたら広げられるかという話。その中の一つとして学校を核としたものが出てきた。中学校も三中、美川、四中があるし、三隅中学校もある。小学校もある。若者となると学校を核としたあり方。美川は逆に野球という一つのスポーツで学童と青年がつながっているという話も出た。そういういった何らかのきっかけが要るのかと思っている。

自治会輸送をされているが、もともと活動は休止状態だったがやはり自治会輸送をやっているといけなくて、最近復活されたようである。一つの課題を解決するために皆で取り組まないといけなくてといった機運の醸成があれば進むのかと思った。

三隅においての所感は、地元でもあるが、推進計画をするに当たって行政との関わ

りが少し薄いところがあるので、行政との関わりをどうすれば持てるかがある。また、情報発信の仕方。SNSを使うなど、若者に参加してもらうためには伝えないといけないのだが、伝える手段が伝わってないのだという話も出た。伝わらないのではなく伝えてないのだと。もっと若者がキャッチするような情報発信の仕方を学ぶべきではなかろうかという話も出た。

○村武委員

私は浜田と旭の2か所に行かせてもらった。浜田でも市街地で人口は多いがうまくいってないところと、中山間地域で人口は少ないが一生懸命やっているところに行った。環境や条件は違うが、課題は結構似ていた。皆が言われたように若者の参加がすごく難しいと言われていた。人材不足もある。協働のまちづくり自体が浸透していないので、誘っても参加されないとか、理解されてないのかと思った。

自治会とまちづくり組織を混同している方も結構いらした。どれが自治会活動で、どれがまちづくり組織の活動なのか、まちづくり活動をされている方でもそこが整理できてないように感じた。

まちづくりコーディネーターとまちづくりセンター職員との関わりが少ないところが多いように感じた。コーディネーターもセンター職員も一生懸命されていると思うが、現場とうまくつながってない印象を受けた。先ほど芦谷委員が言われたように、行政がつくっている仕組みはしっかりと立て直していかないと、言われたから何か一生懸命やりたいが、どうして良いのかが分からないという印象を受けた。

○川神委員

私は三隅だけしか行ってないのでほかとの比較がなかなかできないのだが、皆が言われたように、三隅も黒沢・三隅・井野と3地区見て、同じ三隅内でも感覚が違うので、一括で語るのは厳しいと感じる。その中で共通しているのは、やはり若者の登用が難しい。若者を地域活動に引きずり出すための仕掛けがうまくいかない。結果的にはまちづくりの役を何役も自分たちがこなさなければいけない形になる。ある地域は絶対兼任は駄目だと。必ず一人一つの役職しか持たないと決めている。また、これは重要だと思ったのは、外部の力を、まちづくり総合計画を作るときにも外部の人間を呼んで勉強会を開いた。あとは地域の中の全ての団体、全ての役員が懇談会を開き、隙間がないように意見を徴収して回った地域もあった。三隅の中ではコミュニケーションを取るためにやり方を工夫している。勉強会で外部の力を入れて刺激を得ながら、良いものにといい前向きな取組姿勢が感じられる。三隅は進んでいると言われるだけあって、課題はあるが何らかの方法で解決策を見出そうとする力を感じている。

どこの地域だったか、自治会はもう要らないので連合自治会を潰してまちづくり委員会1本にした。今後、今の自治会とまちづくり委員会との関係があるが、それぞれすみ分けができていれば良いが、そうではなく、重複やよく分からないところがあるなら一気に整理する方向も一つかと感じた。

もう1点は、コーディネーターの活動が進んで、まちづくり委員会ができているところと、あまりうまくいってないところとでは、コーディネーターとしてどのような

人間を送るか、同じではいけないのでは。今からやるところに対するコーディネーターと、走り始めて課題を拾い上げているところに対するコーディネーターは、色分けして配置するべきではという意見も出ていた。

○西田委員長

私は、金城以外は顔を出した。先ほどから言われるように皆共通している部分もある。一つは人材不足で一人が役を兼務している。若者は自分の時間を優先して役職に取り組めない。コーディネーターも協働のまちづくりが始まった当初は各地域に配置されていたのが今は浜田1か所になり、主にまちづくり推進委員会の立ち上げに力を注いでおられ、周辺地域からは動きが見えにくい。見えるところもあるが。

自治区制度に替わる新しい協働のまちづくりがスタートしたのに、ではどういうまちづくりをするのかという行政側の姿勢がなかなか見えてこない。住民に任せ切りとは言わないが。何をどうしたら良いのか、雲をつかむような感じで、具体的に何をしたら良いかつかめないという声もあった。

市は市で地域の声を聞き、議会もそうだがいつも地域に来たら同じことを聞く。同じ人が同じことを市にも言う、議会にも言う。しかし誠意ある回答は一体いつ来るのか。いつも同じパフォーマンスの繰り返しではないかと。それはどうなのかという声もあった。

もう少し分かりやすい組織にするべきではないかという声もあった。私を感じたのも大体皆と同じである。

三隅では防災行政無線をもっとまちづくりに活用できないかという声もあった。旭では、自分たちが必要としている事業予算が削られて、本当は欲しいところに予算がない。そうでないところに予算が使われる。もう少し地域の声をしっかり聞いて、予算の選択と集中をしてほしいという強い声もあった。

ということでざっくり伺った。

○小寺書記

先ほど所感をいただいたので、続いて提言にどういったことを入れたら良いか皆の意見をいただいて。

○西田委員長

提言に結び付く、肝になる部分を聞きたい。

○岡本委員

三隅、三保の方が言われたのだが、ほかのところでも同じことを言われた。今の若い世代にとってSNSがすごく大事なのだと言われた。ただ、何々をやったという案内は欲しくない。それは終わったことではないかと。何々をやる、これからやることについての情報発信をしてくれれば、参加も含めて、次の世代を意識したSNSを活用した方策が必要ではないかと思っている。その辺を提言に入れたらどうかと思っている。私は携帯電話の使い方については不得手なのだが、様々なアプリがあるので、そのようなことを検討する。総務文教委員会で話しているデジタルの話と同じように、アプリについても何点か提言に入れながらまとめたらどうか。

○西田委員長

誰でも、提言に結び付けたいような点があれば自由に発言してほしい。

○岡本委員

予算の話が出た。自分たちが使いたいものがないのだと。その辺のことがよく分からない。活動しているのだからそれに応じたものを出してくれと。活動しているなら良いのではないかと思っている。自分たちが思うように使えず、こちらが使えるという意味合いがよく分からない。それによっては、予算の拡充なり、こういう案に予算を付けたらどうかといった提案も考えられる。その辺は行かれた方に聞いてみたい。例えば弥栄でそういう話が出たが、どういう予算のことを言っているのだろうか。

○村木委員

浜田では、総合的に使い勝手が悪いという話が出た。三隅では食事。今は上限が千円だが、今時千円では難しいのでもう少し上限を上げてほしいということと、いわゆる飲むことなど、コミュニケーションを主目的としているなら飲み会も認められても良いのではないかという話は出た。あとは積み上げ。こういったことをやりたいのだと積み上げてくれば、その積み上げはある程度認めてほしいと。今はどちらかというところではなく、ある程度金額は決まっているが、実際に事業を積み上げることによって要求するというのも出た。

○岡本委員

私の守備範囲では、逆に事業をやってもこの事業の金を使い切れないという話があったが、足りないという話が私には解せない。積み上げていくとはどのようなものか。

○村木委員

やりたい事業が地域ごとにあるので、それを積み上げていくと、配給される金額より事業のほうが高いので、何かやめなければいけない。まさに余る反対である。

○岡本委員

例えばどういうことを言っているのか、私にもよく分からない。

○村木委員

黒沢や井野から積み上げ方式にしてほしいという声があった。もちろんそこには地域計画書があるので、地域の計画を実現するためにこれだけの事業をしたいのだと。

○西田委員長

旭には移送サービス事業があって、透析患者が何人かおられて、以前は移送サービス事業で車いすごと乗って輸送ができていたのだが、それがなくなった。必要な事業だったのに切られた。透析患者は困った。どうしてくれるのかと要望をしても返事がない。せめて旭だけでも、1台だけでも、軽自動車が良いからあれば移送ができるので助かる。今まであったものが切られて、提言しても返事がない。

別の例では、教職員住宅で、2世帯2名しか住んでなかった。一つは雨漏り寸前だったので、修理してほしいと言っても取り上げられない。最終的には取り壊していった。もっと予算を付ければ使えるのに、もう古いから改修費までは掛けずに取り壊して減らす方向になっている。本当に必要なものにお金を掛けない、と不満を言われていた。

○岡本委員

地域の声を行って聞くことについては間違っていないと思うが、まちづくりの意見として頼まれているのかということそうではない。透析患者の通院云々は、まちづくりの話ではない。福祉行政がどうあるべきかの話であって。

○西田委員長

まちづくりは福祉も教育も全て含めて地域のまちづくり。予算の選択と集中ということを、そこでは言われていた。

○岡本委員

例えば勉強会をするなどではなく、実務的にこれをサポートしてあげないと難しいということも、まちづくり予算にあるのか。あってほしいのか。

○西田委員長

我々が地域を回ってヒアリングすることも大事で良いことだが、それに対するきちんとした返しが無い。そしていつの間にか地域が変わっていつている。役が一人に集中するので役替えしたいとか。少し休憩する。

[14 時 07 分 休憩]

[16 時 10 分 再開]

○西田委員長

それでは会議を再開する。

(2) 提言書への追記

○西田委員長

提言のこれまでの6項目の中身については、色々皆で協議してそれぞれ出された中で、提言に結び付けたい内容に付加するものがあれば、その文言を仕上げていただき、1月5日朝8時半までに事務局へ出してもらいたい。ただその6項目の中で、(1)のまちづくり推進委員会及び町内会のあり方については、横並びで書いてあるがまちづくり推進委員会と町内会、二つのあり方をそれぞれ分けて提言に結び付けるような内容があればそのように書いてもらい、事務局へ送ってもらいたい。送ってもらった内容を基に皆で再度協議したいのだが、それは1月10日、午後1時30分から委員会を開いて協議させてほしい。そういうことで良いか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにさせてもらう。

○小寺書記

ではまた皆でメールやLINE WORKSで案内するので、確認をお願いします。

(3) その他

○西田委員長

その他何かあるか。

○小寺書記

地区まちづくり推進委員会との意見交換会をされて、実際参加された委員会メンバーの方から、今回どういった意見が出たかを共有してほしいとの要望があるため、そちらの対応についてお諮りいただければと思う。事務局案としては、皆に地域分の報告書を作ってもらっているのですが、浜田地域で出席された方には浜田地域の報告書を送る、旭の参加者には旭の報告書を送るという形である。ほかの地域分については今日の委員会のホームページで全部公開することにはなっているので、そちらをご覧いただければ他地域のものも見られると案内できるかと思っている。それについて意見をいただきたい。

○西田委員長

地域の出席者に対してはその地域のまとめを発送する、それで良いか。全体はホームページ上で見られるとのことなので、そのような取扱いにさせてもらって良いか。

○岡本委員

よそのところを見たいというのは、自分の地域もしくはその周辺地域だけを言っているのか、それとも全体のことを言っているのか。私は全体のことかと思っていたのだが。全体であればホームページで見てほしいと案内してあげないといけないと思う。

○小寺書記

おっしゃったように、全体を見たいということがあればホームページで見られるようになっていくという案内ができるかと思う。言われたのは、自分が参加したところ、例えば浜田は3グループ分かれていたので、ほかのグループでどのような意見があったか知りたいとのことだったので、そこの報告書を共有してほしいという意味だったかと思う。

○岡本委員

よそはどういうことを言われているか少し知りたいという意見が、金城でも出た気がする。三隅もそのような感じだった。計画するのに良いアイデアが浮かばないからよその活動を見たいのだと。

○西田委員長

ほかの地域の意見についてもホームページで見られるという案内も添えてもらえたらと思う。ほかはないか。

○村木委員

提言のことで(5)を修正させていただいたので報告申し上げます。補足資料として、この文面にも出ている浜田市教育推進計画というのもSide Booksのフォルダに入れているので参考にしてもらいたい。10日以降に説明ができればと思っている。

○小寺書記

設立準備中のところに書面で意見聴取をしようと、前の委員会で話していたのだが、その内容の確認をお願いできればと思う。

○西田委員長

設立準備段階のところに対しては、意見聴取シートという形で今配信されたような内容で意見聴取するとの話が前回出た。こういった内容で良いか。

○小寺書記

委員会内では4項目あったが、一つは地区まちづくり推進委員会の設立に向けた準備に当たって、悩みや困り事があったか。また、議会や市に求めたい支援があるか。今回は書面でやるが、議員と対面してまちづくりについて話す場が必要か、希望するかしないかの確認。最後にまちづくり推進委員会を設立される際の構成は、市に確認すれば済むと思ったので省いた。この3項目で良いかどうか確認してもらいたい。

○西田委員長

事務局からは3項目が挙げられた。これは計画時ではなく設立時に悩んだこと困ったこと。2番目は議会や市に求めたい支援や期待するものがあるかどうか。議員とざっくばらんに話せる機会を設けたほうが良いかどうか。この3点についての意見聴取を出させてもらうということで良いか。

○岡本委員

どなたに送るか。

○小寺書記

担当を地域活動支援課に確認しているのだが、代表者がおられるということなので、その方宛てに1部送る。

○西田委員長

ではそのように、意見聴取シートを代表者に送らせてもらう。

○小寺書記

年内にお送りする形で、1月に皆会合を持たれると思うので、そのときに回収できるように考えているが良いか。

○西田委員長

それで良いか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにさせてもらう。

2 その他

(1) 政策討論会幹事会への議題提案について

○西田委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

提言内容が今日まとまればこの話もしたかったのだが、今日は差し控える。

確認しておいてもらいたいのは、政策討論会をやるに当たっては議題提案書を出す必要がある。議題、提案する理由、資料など幹事会会長に出す流れになるので、当委員会から提案する場合にはそういったプロセスが必要になることをご理解いただければと思う。フローも改めて確認してもらいたい。

○西田委員長

政策討論会幹事会については、まだまだ仕上がってないので今後考える。

○小寺書記

1月10日に話ができると思うかもしれない。

(2) CATV行政情報番組への応募について

○西田委員長

これも事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

提言書の中身に関わることだが、「議会の協働に対する関わり方について」という部分にある文言。具体的にはまだ議会だよりや浜っ子タイムズを活用した発信を進めるよう考える。令和6年度上半期の浜っ子タイムズの出演について照会が来ている。「協働のまちづくりを進めるために」という内容で、放送希望月は早いほうが良いかと考えている。出演は議員。応募してはどうかと思うがどうか。

○西田委員長

協働のまちづくりで提言をした後に、そういったことを含めて協働のまちづくりを市民に行政情報として、議会情報としてケーブルテレビを使った告知を、来年4月か5月に放映されるような段取りでと思っている。何か意見はあるか。

○柳楽委員

提言書の中にも入れるような予定となっているので、実施をして、ケーブルテレビを見られる方もいらっしゃるのでは、そこでまちづくりについての理解が進めば良い。実施したい。

○西田委員長

少しでも協働のまちづくりの意識を持っていただくために告知したいと思う。よろしくをお願いします。

○小寺書記

浜っ子タイムズは今まで議会としても何回か出ている。よくあるのは議会報告会の告知や、はまだ市民一日議会の告知もした。改選後に出ているような経緯がある。

今のイメージだが、4月、5月となると大体1か月前が収録になる。この特別委員会については、提言書を提出できたところで一度解散する方針で進んでいる。提言書ができた段階でこの4、5月には恐らくこの特別委員会はないのではと想定している。そうであったとしても、議員として、協働のまちづくりの特別委員会を設置してこういうことをやってきたという話はできると思うので、どなたが出るかはまた協議するとして、そういう進め方になると思っていることを申し添える。

○西田委員長

そういうことである。よろしいか。

(「はい」という声あり)

(3) その他

○西田委員長

その他何かあるか。

○小寺書記

ケーブルテレビの関連で、はまだ議会だよりのほうでもメッセージを出してはどうかということなのだが、ちょうど本日午前中に議会広報広聴委員会があり、紙面の見直しの話などもありつつ、次に出るのが、今は2月1日に出す号の話をしているのだが、その次が5月1日にV o 1. 73ということで出す。そちらに特別委員会として紙面をいただいて、発信されるような進め方で良いかの確認ができればと思う。

○西田委員長

良いか。

(「はい」という声あり)

○小寺書記

どういった原稿にするかは、また皆と改めて相談したいと思う。はまだ議会だよりに載せる部分や、出演するに当たってどのようなことを伝えるかは、改めて相談することにしてほしい。

○西田委員長

それで良いと思う。全体を通じて何かあるか。

(「なし」という声あり)

以上をもって第22回の協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[16 時 28 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久